

<策定の背景> 現計画が令和7年度で計画期間の終期。近年の状況の変化を踏まえ、次期計画を策定する。

<性格> 滋賀県基本構想を上位計画とし、本県農業・水産業の基本的な施策の展開方向を示す。県民と基本理念を共有する。

SDGsの達成に貢献し、世界農業遺産に認定された「琵琶湖システム」を次世代に継承する。

<計画期間> 10年後(2035年)の目指す姿を実現するために実践する令和8年度(2026年度)から令和12年度(2030年度)までの5年間。



## 第1章 基本理念

### (仮)つながり、つづく、しがの農業・水産業

#### 1. 基本理念の背景

コロナ禍を経験した私たちは、県民みんなが、滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」が実感できることを目的に「人」「経済」「社会」「環境」の視点で取組を推進。

#### 令和5年度末（計画策定後3年目）の進捗状況

成果指標の評価は、年次目標の達成率に応じてA～Eの5段階とし、達成率が80%に達していれば概ね順調(A評価)とし、令和5年度の結果は下表のとおりとなった。

評価	A	B	C	D	E	集計中	計
項目数	25	4	5	3	3	2	42
割合※	60%	10%	12%	7%	7%	5%	100%

※小数点以下四捨五入のため100%になりません



新規漁業者の確保に向けた取組



水稻新品種「きらみずき」の開発・普及



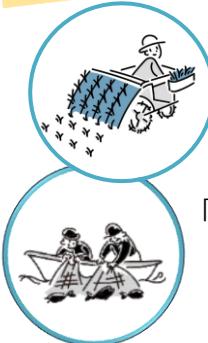
農村地域での多様な主体との連携推進

#### 2. 社会情勢の変化

- 各産業分野での人材確保に向けた取組の進展
- 生産資材・輸入食料の入手困難化
- オーガニック等環境に配慮した取組への関心の増加

- 労働環境(テレワーク・移住)の変化
- スマート農業の普及

#### 3. 基本的な考え方



「生産者」どうしが協力し、



「生産者」と「流通・小売事業者」が、つながり



「流通・小売事業者」と「消費者」が、つながることで

本県農業・水産業が次世代へと引き継がれる。

世界農業遺産に認定された琵琶湖と共生する本県農業・水産業を次世代へ継承するためには、コロナ禍の経験を踏まえ、これまで以上に立場の異なる人々が協力し、つながることが重要であることから、「(仮)つながり、つづく、しがの農業・水産業」という基本理念を定め、施策を推進します。

#### 第2章 目指す2035年の姿



農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生産者と消費者のつながりが深まり、誰もが農業・水産業との関わりを感じている。



滋賀の強みを活かして、未来を切り拓くことができる、力強い農業・水産業が営まれている。



多様な人が関わる活動によって人と自然が共存する豊かな農山漁村に賑わいが生まれ、その価値が高まるとともに、誰もがその恩恵を認識している。



気候変動や地球温暖化、自然災害等のリスクに対応するとともに、琵琶湖を中心とする環境と調和した「琵琶湖システム」が、次世代に引き継がれるための取組として発展し、誰もがその取組を誇りに感じている。

## 第3章 政策の方向性

新規テーマ

琵琶湖システム関連



## 第4章 政策の推進方法

- ・県民に対する情報提供
- ・分野別（農業・畜産業・水産業）の政策推進
- ・分野別計画等や具体的な手引書等による施策の推進
- ・試験研究と普及活動による施策の推進
- 他

## 参考資料

- ・2035年における滋賀県農業・水産業に影響を及ぼす社会情勢の変化
- ・SDGsのゴール、ターゲットと関連する施策との関連性
- 他